

滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に
基づく令和 4 年度（2022 年度）事業について

外部評価

滋賀県立琵琶湖博物館
令和 6 年 1 月

外部評価について

琵琶湖博物館の第三期中長期基本計画は、目指すべき目標に向けて実施していく毎年度の計画を立てています。その年度計画に対して、毎年度末から新年度にかけてその実施した内容についての内部評価を行ったのちに、その内部評価に対する評価を外部委員に実施していただきます。外部評価は、滋賀県立琵琶湖博物館協議会の委員が外部委員として実施します。

外部評価は、琵琶湖博物館がたてた計画とそれに対する内部評価について、6つの事業目標ごとに、その評価が妥当な評価であるかを中心に検討し、琵琶湖博物館が目指す10年後の目標を最終到達点として、そこに向かうために必要な実施内容であるか計画になっているかも含めて、助言や意見を述べていただいています。

ここに公表する外部評価は、各評価者（琵琶湖博物館協議会委員）が各事業目標に対する評価を行った後に、それら意見を踏まえて琵琶湖博物館協議会委員長および副委員長が総評を行いました。

以下には、総評と事業目標毎の評価を表記しています。各事業目標は、評価書を提出された順番に無記名で並べました。評価者が対象とする事業目標について特筆すべきことがない場合は、意見を記述していないこともあります。なお、評価の書きぶりを統一するために、ですます調への変更や漢字の変換ミスなどの明らかな間違いについては、事務局で修正いたしました。

実施していただいた外部評価については、琵琶湖博物館が行った内部評価と合わせて、各事業目標について、その報告性も含めた年度計画の見直しを行うために役立てられ、それぞれの事業をより目標に近づくように実施していきます。

○令和 4 年度（2022 年度）外部評価の実施者

第 14 期滋賀県立琵琶湖博物館協議会委員（13 名）

外部評価 総評

（琵琶湖博物館協議会 会長・副会長による）

第三次中長期基本計画の 2 年目終了をうけて、昨年度に続き第 2 回目の外部評価を行った。評価対象となる令和 4 年度の事業について、各重点事業の実施状況と内部評価を踏まえ、琵琶湖博物館協議会委員が多様な視点から評価した。今回は中長期評価の進捗状況や達成度を示す概要図が示されるなど、評価しやすい枠組みが設けられていたほか、昨年度の評価を踏まえた計画の見直しも進んでおり、第 1 回の外部評価の効果も実感しながら評価を進めることができた。以下、個々の事業目標ごとに評価内容を述べる。

「事業目標 1」については、研究の推進と成果発信が順調に進んでいることから、達成度は 50%程度との内部評価よりも実際はもっと高く 75%程度と評価できる。一方で、研究備品の更新など研究環境の向上を図るうえでの予算確保が課題といえる。予算の獲得にあたっては、優先順位をつけて折衝を続け、質の高い研究を行うために必要な研究環境を構築していく必要がある。企業との連携研究や DX 事業を活かした研究の進展などが今後さらに期待される。

「事業目標 2」については、ICT の活用を進め、DX 事業を推進していく中で、情報格差が極力起きないように、リニューアル時に重点的な検討を行ったユニバーサルデザイン評価会議の蓄積を生かし、本当の意味での「だれでも・どこでも・いつでも」使える整備を目指してほしい。同時に、その基盤となる標本整理の推進や、収蔵庫空間の整備など、外部から見えにくいところにも十分に配慮し、必要性の高い設備から計画的な改修を進められたい。

「事業目標 3」については、長年の交流事業の積み重ねをうけて充実した内容の「びわ博フェス」が開催できたこと、学びあいのかたちとしてフェスの重要性が共有されたことが特筆される。しかし、まだ県民に広く周知されているとはいえず、さまざまな媒体で発信し、交流事業の担い手の多様化を促進していく必要がある。琵琶湖学習についてはかねてより課題が残り、学校現場のニーズ把握とその反映、オンライン学習の活用や、子ども向けの「びわこのちからチャンネル」の開発など、琵琶湖博物館をさらに利用してもらうべく工夫する余地が大きい。学芸員にあまり負担のかからない形で「学びあい」という双方向の活動をさらに推進してほしい。

「事業目標 4」の「もっと使いやすい博物館へ」を体感できる「ポケット学芸員」の利用開始は今後の普及・充実化への期待も込めて大きく評価できる。琵琶湖博物館のガイドなど、アプリを補完できる既存の媒体も生かし、「観る＋使う」展示への成長を図る中で博物館の特色を打ち出してほしい。「大人のディスカバリー」も、オープンラボを含め博物館の人気スポットで、来館者の満足感や「観る＋使う」の実感を得やすい空間となっている。このほか、企画展示が過去最高の来場者数を記録した点も高く評価でき、水槽破損をうけて展示更新の見直しが必要となったことを勘案しても、達成度は内部評価よりも高く評価する意見が複数出ている。

「事業目標 5」について、インターネットページや動画など情報発信は工夫されており評価できる。さらに親しみやすく、コメントしやすい雰囲気になれば、残る課題となる「双方向的な広報」につながっていくだろう。また双方向性を模索するなかで、社会的評

価値の情報収集も重要であり、とくに資金調達の観点からは、博物館に関わることで企業がどんな利点を得られるかについても考慮しておく必要がある。以前から指摘のある「駐車場から博物館への道がわかりにくい」点については、2023 年度に重点的に検討し方針を定める計画となっており、十分な議論を進められたい。

「事業目標 6」は水槽破損事故の影響もあって、内部評価では 6 つの目標の中で唯一達成度 25%程度、「大きな課題がある」項目で、琵琶湖博物館の今後を左右する重要課題といえる。新しい取り組みへの投資と老朽化施設の改修費用の確保との間でバランスをとるのは難しいが、再び大きな事故が起きないように、まずは安全第一・健康第一で、来館者と博物館スタッフが安心して利用できる・働ける環境を着実に整えてほしい。予算の確保にあたっては、県に強く要望をしていくだけでなく「水槽サポーター」である関係企業・団体との連携を深めるとともに、事故を契機として潜在的なサポーターも掘り起こすような積極的な取り組みが必要となる。

博物館の活動は、全体的によく頑張っていることがわかる。その一方で、目標に向かって実施している事業について、その次の展開をどうしようとしているのかが見えない。これまでの活動や取り組みを振り返った上で、たとえば、地域の人びととの関わりの中で、その事業をどうやって広げたり展開していくのかが見えるようにしてほしい。それは、目標に対する展望と事業の計画を関係づけて、次の 5 年間の計画として検討されることなのかと思われるので、その点について、琵琶湖博物館としての考えが見えるような形で示していくことを期待する。

○事業目標 1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

- ・実施目標：琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地域の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。
- ・評価指標：地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される

重点事業 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

重点事業 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

重点事業 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）

世界湖沼会議の出席の際にもっと『琵琶湖博物館』の存在をアピールしてはいかがでしょうか。

~~~~~

1-1：研究が順調に進んでおり。研究費についても一定数確保できたとのことで、内部評価概要図に異議ありません。

1-2：J-STAGE のアクセス数が月平均 150%と飛躍的に増加しており順調に進んでいると評価できます。

1-3：予算の問題で難航しているものの、研究室の照明更新が進んだことは、職場環境改善において評価できます。

~~~~~

1-1：国の科学研究費が、例年同等に得られたこともあり、研究が進んでいることが、年報に記載されている研究内容からもわかり、大いに評価致します。

1-2：琵琶湖博物館のホームページがわかりやすく整理され、その一つに、科学技術振興機構の研究論文公開プラットフォーム J-STAGE に、私も容易にたどり着くことができ、琵琶湖博物館研究調査報告を読むことができました。だれでも、世界中から見るができることにより、研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝えるという目標に達し、2022 年度は、アクセス数も増え、研究成果として、より多くの人に利用されることがわかりました。今後も大いに期待できるところであり、成果として大いに評価致します。

1-3：電子顕微鏡が更新できたことは、今後の研究を進めていくにあたって、大きな成果が期待できそうです。また、企業（伊藤忠商事）との連携研究により、備品、機器の整備が進んだことも、大きな成果として評価致します。今後も連携研究の重要性を感じます。

~~~~~

この事業目標 1 は、魅力の掘り下げと、世界への発信です。重点事業 1-1 で、論文や研究の発表がされていることが記され、重点事業 1-2 でも、アクセス件数の増加について報告されています。重点目標 1-3 の評価は低いですが、1-1 と 1-2 のほうが事業目標 1 としては軸かと感じるので、1-2 の評価を少し上げてもいいかと考えます。

~~~~~

内部評価を支持します。研究があつての博物館事業だと思います。お金・時間・環境が整い充実するよう期待しております。

~~~~~

特にありません。引き続き応援しています。

~~~~~

研究者による最先端の研究が進捗し、適切に発信もなされていることは十分に評価できます。しかし、実施目標・評価指標ともに記載のある「地域の人々」がどのように関わっているのかは内部評価や実施状況からは読み取れず、目標・指標と内部評価との乖離を感じました。

年報から研究やその成果発信に地域の人々が関わったところを読み取ると、（事業目標 3 と重なりますが）びわ博フェスでの活発な活動や、企画展示「チョウ展」が地域で昆虫を研究している人たちと博物館との共同研究の成果だったことがわかりました。目標・指標において「地域の人々」とともに、を標榜している以上は、そのあたりのことにも言及して評価しておく必要があるのではないのでしょうか。

~~~~~

「1-2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」において、アクセス数が月平均で 1.5 倍増加しているということから、着実に研究成果の利用が広がっていると言えるのではないのでしょうか。今後、論文をわかりやすく解説するページを運用していくことで、さらに研究成果の利用が広がっていくことを期待します。

「1-3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」において、予算の獲得が課題との記述がありましたが、このことについては他の項目でも挙がっています。それゆえに、項目ごとというよりは、館全体として予算の優先順位（予算の高いもの）を掲げ、その獲得に向けて県との交渉を図っていく方がいいのではないのでしょうか。国立科学博物館がクラウドファンディングにより、一日で目標としていた金額を達成することができたとの報道がありました。同じようにはいかないかもしれませんが、このような手法もあるのでないかと思いました。

~~~~~

○事業目標 2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

- ・実施目標：貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICT を活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。
- ・評価指標：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている

重点事業 2-1. 標本・資料の管理体制の強化

重点事業 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

重点事業 2-3. ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）

「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備について。今一度、視覚、聴覚、知的、肢体に障害がある方々にとってもアクセスができるものなのかと検証していただきたい。特に、リニューアルの UD 評価会議を積み重ね、来館時の課題はかなり減らせたのではないかと自負しておりますが、地域的に来館が困難な特別支援学校もありますので、ICT の活用を進める中で情報格差が極力起きないように、音声での説明は画像はあるものの、『これを見てください』と終わるのではなく、『これを見てください。羽根の大きさは広げると左右は 10cm もあるんですよ』みたいに映像を言語化する配慮をわざわざではなく、当たり前の基準とすれば盲学校内でも活用ができますし、また聾話学校の児童・生徒が校内で映像を見ながら学習できる教材として活用を進めるなら、総ルビやわかりやすい日本語、わかりやすい表現の字幕を付ければ、それは自ずと外国籍の方々や軽度の知的障害がある方々にもわかりやすい情報になると思います。その上で手話通訳の挿入も検討いただければ、本当の意味での「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備になると思います。

~~~~~

2-1 について、一部設備の交換・改修が進んだことは評価できます。大事故になる前に、継続して優先順位の高い設備から修繕を進めて欲しい。

2-2 について、デジタルミュージアム推進事業を申請し採択されたことは、大きく評価できます。来年度以降に期待します。

2-3 について、予算も確保できたとのことで、新しい取り組みに来年度以降に期待します。

~~~~~

2-2、2-3 について、博物館資料の画像および 3D コンテンツを電子図鑑として公表する「デジタルミュージアム推進事業」が、国や県に補助制度の申請が採択されたことは、今後資料の整理がすすんでいくことが期待でき、大いに評価致します。

~~~~~

事業目標としては着々と進行していると感じます。ただ、2022 年度に収蔵庫空間の電気、空調などの一斉点検が掲げられていましたが、2-1 では未達成のようであり、課題なのだと感じました。

「デジタルミュージアム推進事業」の採択により、その資金が、今後の事業目標の推進に役立つと期待します。

内部評価には、人員の問題が挙げられていましたが、事業目標の進捗とは切り離して考えて、評価としては記載にある「達成するための準備が進められた」という点での評価でいいと感じます。

~~~~~

内部評価を支持します。その中でも特に ITC の活用を期待しております。

~~~~~

データベースを一部拝見しましたが大変使いやすく、検索のしやすさを感じました。資料や情報を未来に永く残すためにもデジタルコンテンツの整備を進めつつ、施設や備品等を守るための活動にも時間やお金が割けられるようになることを願います。

~~~~~

「デジタルミュージアム推進事業」やウェブ図鑑の構築に向けての準備や大型備品の導入などが事業計画のもと着実に進んでいる状況が内部評価・実施状況から読み取れました。しかし同時に、内部評価最後の「ただし」以下にあった問題点が非常に気になりました。社会的要請の高いところとはいえ発信を急ぐあまりに、発信の基盤となる足もとが危うくなるようなことになっては本末転倒です。「長期的な資料整備の継続」という観点も発信の重要性とともに本事業目標の両輪に据えて、「老朽化した施設・備品および膨大な数の資料の整理・保管に必要な人員」への措置もしっかりと視野に入れておくべきです。水槽破損事故がその警鐘であるように思えてなりません。

~~~~~

「デジタルミュージアム推進事業」の申請に注力し、その結果、国や県に採択されたことにより、来年度以降の事業目標の達成のめどが立ったことは、評価したい。このことですべての整備ができるとは思わないが、重点項目を定めるなどして、計画的に取り組を進めてほしい。

~~~~~

○事業目標 3 みんなで学びあう博物館へ

- ・実施目標：交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の出会いが新たな活動につながる環境を創ります。
- ・評価指標：利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる

重点事業 3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実

重点事業 3-2. 出会いの場の創出

重点事業 3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）

交流事業は長年の積み重ねや内容の充実で素晴らしいと思います。ただ、活動の利用者がお互いに交流や意見交換などを充実するとともにさまざまな媒体で発信してはいかがでしょうか。ご存じの県民が少ないのは残念です。

~~~~~

3-1：イベント実施の PDCA により、利用者のニーズ分析までできており評価できる。入手情報を活かした NEXT ステップに期待する。

3-2：工夫して新しい出会いの場の創出を図れており、評価できる。

3-3：研修後のアンケート実施により実態を掴めたことが第 1 歩。「深く学ぶ」につながる仕掛けづくりに期待する。

~~~~~

3-1：幅広いニーズに応えるべく多岐に渡る博物館の対応は、年報を読ませて頂き、学芸員が取り組む研究以外の時間が予想以上に多いことがわかり、「研究専念日」を遵守することの重要性を感じました。

3-2：2000 年に発足した「はしかけ制度」も、今では、25 のグループが活動し、グループによっては、定例調査や追跡調査をするまでに成長し、まさに「みんなで学びあう博物館」としての役割を大きく果たす存在となっていると思います。また、一般の利用者への観察会や催しにも指導者的な立場として活動され、博物館の理念である「フィールドへのいざない」に、大きな役割を果たす存在になっていると思います。今後のはしかけ活動に期待しています。

昨年「びわ博フェス」に参加して、はしかけのみなさんそれぞれが、参加された一般の方々に生き生きと指導されるとともに、共に楽しんでおられた様子がとても印象に残り、「学びあいの場」としても、びわ博フェスは重要な位置づけになっていると思います。また、企業や市民グループの参加もあり、コロナ以来、久々のにぎわいとなり、今後、琵琶湖博物館が発展していく上でも、「びわ博フェス」の重要性を感じました。今後、魅力のある「びわ博フェス」を持続していく上でも、はしかけや市民グループ、企業など参加者同士の交流も「学びあいの場」となり、活動していく上での大きなヒントが得られる場でもあり、気楽に交流を楽しむ場の設定が大切であると思います。

3-3：教員研修につきましては、かねてより課題が残り、アンケート結果からも、日ごろ多忙な教員に求めるのも難しい状況ではと思いますが、連携しやすい時をとらえ、例えば、フローティングスクールでは、5 年生の子どもたちが、博物館に来館できにく

い状況であれば、琵琶湖博物館と船内とのオンライン（22 年度は魚の解剖などのオンライン実施）を広げ、各展示室とを結ぶオンラインがあれば、琵琶湖学習も楽しく学べ、リニューアルされたすばらしい展示も利用でき、双方向の交流からも、琵琶湖学習がより深まるものと期待しています。ただ、学芸員の先生方にとっては、負担が大きいかと思いますので、負担のないプログラムの設定が必要かと思います。

また、子ども向けの「びわこのちからチャンネル」の開発などもいいのではないのでしょうか？琵琶湖博物館を大いに利用してもらう工夫は、今後、まだまだあると思います。（事業目標 4 にも関連してくるかと思います）

~~~~~

事業目標にある「みんなで学びあう」について、博物館の情報発信だけでも大変な量の情報なのに、つながりまで提供したり、「学びあい」という双方向の活動をしたりするのは大変な労力と感じます。

大変な目標ですが、負担のなきよう取り組んでほしいです。内部評価でいいと思われまます。他の博物館の取り組みと比べたりしたことがあれば、またお話があるといいな、と思います。

~~~~~

内部評価を支持します。この分野の今後の伸びを期待しつつ、それにかかるパワーも相当なものと推察します。どうか無理の無いよう進めてください。

~~~~~

アンケート調査に関してコメント致します。

来館回数を調査いただいているので、新規のお客様とリピーターを分けて他の調査項目を深掘れば、どういう人が複数回利用してくれているのかや、リピートには影響しない不満内容（改善しなくても良いわけではありませんが…）などが把握できると思います。

「情報源」について、選択式であれば SNS や YouTube などのこちらからの発信も選択肢に入れるとそれぞれの効果も把握できるのではないかと思います。

ネットでの回答もできるようになると、ちょっと休憩していて思い出した時や、帰りの車の中などでも回答ができて協力しやすいと思います。

~~~~~

ポストコロナ期における「今後の方針や制度設計」に時間がかかることは理解できます。「みんなで学びあう博物館」は琵琶湖博物館の特色を最も打ち出せる目標といえるだけに、ニーズの把握に基づいた制度設計をじっくりと進め、交流事業や出会いの場のさらなる充実化を図ってほしいと強く願っています。とくに協議会でも多くの意見のあがった「琵琶湖学習の支援」についてはソフト面・ハード面双方において博物館ができることを今後の検討によってかなり開拓していけるのではないのでしょうか。

事業目標や内部評価の記載の分量がほかの項目と比べてやや少ない点からも「難航」している様子が読み取れました。テコ入れを図るうえで、実施体制の見直し・強化など必要なのかもしれませんが。この機会にぜひ検討してもらいたい。

~~~~~

「3-1 幅広いニーズに応える交流事業の充実」において、小学校の現状から考えると、

現在の琵琶湖博物館の利用は 3 年生が社会科で昔の人々の生活や暮らしを学習するので、3 年生に偏っているのではないかと思います。小学校をはじめ学校については、学習指導要領の内容に基づいて学習（カリキュラム）を組み立てているので、その視点に立った観察や体験コーナー等があると利用の幅が広がるのではないのでしょうか。

「3-3 『深く学ぶ力』に基づく琵琶湖学習の支援」において、教員を対象にした「研修後のアンケート」結果から、「教員が生徒に対して体験的な学習を実施していないことがわかった」と記載されています。もちろん、教員自身の課題もあると思うが、「追跡調査を今後も実施しながら、研修内容の改善を計画的に進める。」と記載されているので、その辺りの取組をお願いしたい。

～～～～

## ○事業目標 4 もっと使いやすい博物館へ

- ・実施目標：琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます
- ・評価指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える

重点事業 4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

重点事業 4-2. 「観る」展示から「観る＋使う」展示への成長

重点事業 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

- ・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）

展示物や展示の工夫ももちろんのこと、台の高さや角度、車いすの方でも近くまで迫れるか、または安全かなど、UD 評価会議はリニューアルに向けてだけではなく、（そこだけで終わるのはバリアがあるから取り除くというバリアフリーの考え方なので）

UD の性質上、常に検討し、来館者のニーズの把握や学芸員さんたちの工夫にかかっていると思います。ぜひ、展示に常に付帯して連動して常に障害の有無、年齢や体格などに関わらず来館者が誰もが楽しむにはどうすればいいのかを考え続けていただきたい。

~~~~~

各種展示の工夫を凝らして実施されており、評価できます。

~~~~~

4-1：「ポケット学芸員」は、博物館のサービス向上に大きく貢献し、22 年度の利用状況等はわかっていませんが、来館者にとっては、手軽に利用ができ、知的好奇心も満足でき、観る楽しさが倍増するという点では、大いに評価できます。そして、今後の設置個所の増設に期待しています。（私は、まだ利用していないのですが、次回、利用させて頂いて、改めて、展示を観ることを楽ませて頂きたいと思っています）

4-2：オープンラボでの利用・活動は、実態顕微鏡などを利用している“はしかけ”のみならず、学芸員と来館者とのやり取りなど、来館者にとっても、博物館をより身近に親しみを感じ、知的好奇心を呼び起こす場となっていて、今年度もラボでの利用率が高く、大いに評価致します。「大人のディスカバリー」は、オープンラボを含め「観る＋使う」という点では博物館の人気スポットとなり、来館者の満足感が大きい場へと発展していくものと期待しています。

4-3：水族展示室の破損事故は、私たち県民にとって、とても大きな衝撃を受けました。今では、原因の究明が進み、それと同時にあちこちの水槽にも亀裂が生じていることも判明し、今後、安心して楽しめる水族展示のリニューアルを祈念しています。今、出来ることとして、「みんなで作ろう！水族展示」ということで、「びわ湖の魚」の絵を募集して、破損水槽周辺にたくさんの絵を展示したり、水槽復旧に向けた応援メッセージを呼びかけて、たくさんの来館者が書いてくださったメッセージを貼って、来館者とともに作り上げていこうという機運が高まってきて、とてもうれしく思いました。

協議会の日に水族展示室を見て回って、感じたことの一つに、からっぽの「トンネル水槽」に、来館者が見て、楽しめる工夫がなされればと思いました。水族やディスカバリースタッフ、はしかけなど、垣根を越えての知恵と工夫を出し合い、子どもたちの人気スポットであるトンネル水槽を楽しいスポットにして頂けたらと思いました。（今、書いている時点で、すでに工夫されているかもしれませんね）

~~~~~

事業目標の「もっと使いやすい博物館へ」の、使いやすい、という意味は多様でありますが、今回の評価では「ポケット学芸員」の利用が開始されたことへの割合が大きいと感じます。そうすると、重点事業の 4-1 の一の評価は上向きでもいいのではないかと感じます。

~~~~~

内部評価を支持します。

~~~~~

利用者視点の意見ですが、琵琶湖博物館のガイドには面白い内容が沢山含まれているため、展示物を見るだけでなくガイドを読んだり聴いたりしてもらえるための工夫も必要だと感じています。ポケット学芸員もとても良いサービスだと思いますが、アプリをインストールすることは一つ障壁となる部分だと思うので、それを上回る充実さや楽しさが館内で知れると、ガイドを見てみようという気持ちになりやすいと思います。

~~~~~

どの事業目標にも関わってきそうな内容なので、どこに記載すればよいかよくわかりませんでしたが、内部評価に「企画展示を実施した」とあるのでこの目標 4 のところに記しておきます。

年報 p121 をみると企画展示「チョウ展」はコロナ禍による入館者数制限を実施していた時期とも重なるなかで、過去の企画展示のなかで最高の来場者数を記録し、リピーターも非常に多かったという。このことは内部評価のなかでも重視して大きく評価し、今後の展示で継承すべき点などを共有しておく必要があったのではないのでしょうか。チョウという題材の魅力の大きさはあったにしても、地域の研究者との共同研究成果の発信、コレクションの整理後の成果公開、小学生への宣伝強化、巨大模型や押しチョウの総選挙など、それぞれの背景にどんな意図や工夫があって最多の来場者数につながったか、評価するとともに今後の参考となるような分析も加えておく必要がありそうです。

~~~~~

「4-1 『観る』展示から『観る＋使う』展示への成長」において、今後、展示室においてフィールドが楽しめる内容となるよう検討を行うと記載されている。「観る＋使う」展示というコンセプトは大切にしたいことだと思うので、検討の上、できるだけ早期に実現されることを期待する。

~~~~~

## ○事業 5 の目標 より多くの人が利用する博物館へ

- ・実施目標：ICT を活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます
- ・評価指標：館内および館外からも利用がしやすくなり利用が増える

重点事業 5-1. ICT を利用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介  
 重点事業 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映  
 重点事業 5-3. 来館しやすい環境の整備

・外部評価 （評価者毎に区切り線をいれています）

YouTube 活用の動画配信など、学芸員の専門的かつ分かりやすい伝え方の工夫がされており、評価できる。

~~~~~

5-1：琵琶湖博物館のインターネットページは、とても分かりやすく改善されていて、「びわこのちからチャンネル」などの動画や研究成果報告も見やすくなり、館長さんの評価にもありますように、利用者への最新の情報や博物館の魅力が感じられ、大いに評価でき、今後、博物館が目指す「双方向の広報」を楽しみにしています。

琵琶湖地域の新たな価値を発信する情報誌「びわはく」（6）の 22 年度版は、滋賀県の昆虫たち特集で、学芸員や滋賀むしの会、トンボ調査グループ、フィールドレポーターの調査など、とても興味深く、参考になりました。最後のページの「来館者から」のページは、博物館への質問や利用方法などがよくわかり、親しみを感じるページになっています。（23 年度版にも設けられていて、毎号あってもいいのではと思いました。）

5-2：来館者アンケートの集計結果から。その一つに会議でも提案されていましたが、駐車場から博物館の玄関までのアプローチがわかりにくいという点の解消方法として、大きな見やすい案内板の設置や足元の工夫をという意見が出ていましたが、例えば、矢印と共に、親しみを感じる絵、ゾウや魚やバイカルあざらしなどの看板を樹木のところに設置して誘導し、足元にもペインティングして、歩いて行くのが楽しくなる工夫があってもいいのではと思いました。

また、以前には、たくさんの身障者用の駐車スペースがありましたが、現在は、博物館の玄関前にも、身障者用の駐車スペースが設けられていますので、大きな駐車場に、ベビーカーを使用しての来館者に一部、優先ゾーン、駐車スペースを設ける等のサービスができればと思いました。そうすることで、若い層の来館が見こまれるのではと思いますが、これは、他所では見たことがなく、可能かどうか分かりませんが・・・小さい子どもたちがベビーカーや歩いてくることを想定して、思いついたことの一つです。

~~~~~

事業目標 5 では多くの人の利用が目標ですが、社会的評価の情報収集も掲げられています。

重点目標 5-2 で、来場者のアンケート調査があるのですが、社会的という観点から、企業からみたびわこ博物館の評価も気になります。今後の資金調達を想定すると、企業からみても何か利点があるといいのではないかと感じます。

重点目標 5-3 「2022 年度の達成する目標」は達成できているように感じます。利用状

況の解析ができていないようではありますが、→評価は上向き矢印でいいと思います。

~~~~~

内部評価を支持します。事業目標 2 と合わせて期待しております。

~~~~~

**Twitter** をフォローしていますが、昨年よりも更新頻度が増えているように感じています。内容についても情報の発信がしっかりとされていて、琵琶湖博物館が何をしているのかが良くわかります。一方で若者視点では、もっと親しみやすさを出すとフォローやコメントがしやすいのではないかと感じています。例えば動物園や水族館などの例を参考に、学芸員を更に身近に感じてもらうツイートをしたり、代表的な生き物には名前を付けて定期的にツイートしたりすると、琵琶湖博物館のファンも増えるのではないかと考えます。

~~~~~

内部評価の内容は妥当であり、「継続的な運用と内容の充実化」、「双方向」性の確保など、残る課題に向けて改善計画を検討されたい。

~~~~~

「5-3 来館しやすい環境の整備」において、チケット等、システムのことについて記載されていますが、実際に自家用車で来られた際に、博物館への案内が不十分であるように思われます。（このことについては、会議でも話題になっていました。）5-2 に少し触れていますが、内容としては 5-3 になるのではないかと。

~~~~~

○事業 6 の目標 博物館の活動を安定して継続する

- ・実施目標：老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます
- ・評価指標：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる

重点事業 6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え

重点事業 6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

- ・外部評価 （評価者毎に区切り線をいれています）

今や、県の事業であれ予算ありきで消極的に進めるのではなく、『ファンド レイジング』の手法を取り入れて。（自分の水槽はすでにされていますが）琵琶湖博物館そのもののメリットは、①ファンを増やす、②PR ができる、③資金集め（ファンド）のためだそうです。

~~~~~

新しい取り組みへの投資と老朽化施設の改修費用バランスが難しいですが、今後再び大きな事故が起きないように、まずは安全第一・健康第一で従業員および来場者が利用できる環境を整えていただきたい。

~~~~~

6-2：今回の水槽破損事故については、多くの人の知るところであり、クラウド・ファンディングで呼びかけるのもいいのではと思いました。

~~~~~

重点目標 6-1 で、2022 年度は「危機管理マニュアルの統合版完成」が掲げられていました。この進捗の遅れが内部評価の下向き矢印になっているのか、今年度どのように取り組んでいくのか気になります。

重点目標 6-2 で「水槽サポーター」の記載があります。今回の破損に関わらず、企業名が入った水槽などはありましたか？確認不足で申し訳ないのですが、企業のサポーター制では、その資金をどこに使ったかの記名があるとサポーターの価値が見える化されたいと思います。

今回の水槽破損は別に考え、トイレの修理は早いほうがよいと思います。

ユニバーサルデザインの重視は重要だと感じます。

~~~~~

内部評価を支持します。（感想）「滋賀県が誇る博物館」としての機能が発揮できるよう、とにかくも県のお考えを聞いてみたいと思いました。

~~~~~

水槽破損については大変ご苦労されたと思います。調査や復旧作業などありがとうございました。ご存知かもしれませんが、データサイエンスの一つに、音や振動などのデータから異常を検知する方法があります。それらを活用すると、水槽が破損する前に危険を知れ早めの策が打てるようになる可能性があります。ご参考までに。

~~~~~

内部評価末尾の「重点事業実施傾向」で唯一「悪くなった」項目が「老朽化した施設の改修と災害への備え」である。水槽破損事故に続いて、いつどこで同様の、ないし、より深刻な事故が発生してもおかしくない状況にあることが伺え、必要なことを優先順

位をつけながら進めていくことが急務です。水槽破損事故の経緯説明を読む限り、事故発生後の初期対応は迅速に必要な手立てを尽くしており、普段からの危機管理の体制はできていて、それが有効に機能した様子が読み取れます。「長期利用停止になっている展示空間にある一部のトイレ」の早期改修など、緊急性の高いところから手を入れていけるよう、施設管理と改修に向けての予算確保とともに体制づくりを進めていく必要があります。

~~~~~

「6-1 老朽化した施設の改修と災害への備え」において、県立の施設であること、来館者が訪れることから、施設の改修については県に強く要望をしていく以外に方法はないようにも思います。「2 月の水槽破損事故は人命にも関わる可能性があり」と記載されていますが、まったくその通りです。こうしたことが他の施設等でも起きる可能性があるのであれば、そのことを強く訴え、対策のための予算をぜひとも確保していただきたい。

~~~~~